

2012年2月23日 志岐記

最高裁訪問記

一緒に活動する石川克子氏から、最高裁事務総局に開示請求した行政文書「審査員選定ソフトの発注仕様書」等が閲覧できるようになった、同行してチェックしてほしいと連絡が入った。

2月23日10時、石川氏と最高裁判所西門で待ち合わせた。

当日は酷い雨、寒かった。

石川 : 「秘書課のアキモトさんお願いします。既にアポを取っています」

守衛 : 「ご用件は」

石川 : 「用件を話す必要ないでしょ」

雨の中、待つこと10分近く、西門にアキモト氏が秘書課職員を連れてやってきた。

アキモト : 志岐に向かって「貴方は誰ですか」

石川 : 「一緒に文書の開示を求めているものです。私が代表で開示請求をしましたが。一人だと聞きそびれるといけないので、同行してもらいました」

アキモト : 「開示請求した人でないと、中には入れませんよ」

志岐 : 「それはおかしい。どこの官庁でも、同行者も話を聞けましたよ。」

アキモト : 「最高裁はダメです」

志岐 : 「情報開示はあなたたちの義務ですよ。何故、それを拒むんですか」

石川 : 「こんなに雨が酷いのに、何時まで外で話をさせるんですか。いい加減にしてください」

アキモト : 「それでは、中で話しましょう」

ロビーに入ると

アキモト : 「ここでこちらから開示の案内状を見せてもらいます」

石川 : 「打ち合わせ室に入ってからでよろしいでしょ」

アキモト : 「ここで見せてもらいます」

石川が案内状を見せる。

石川 : 「何故、同行者を入れないのか。入れないと言う規則はどこに書いてあるのですか」

アキモト : 「入れないのは当然です。請求者でないから」

志岐 : 「一緒に聞いて何が問題あるのですか」

アキモト : 「請求者ではないからです」

押し問答続く。

少し離れて脇で監視していた一人の男性が近づいてきた。

その男：「同行者は入れません」

志岐：「貴方は誰ですか。私も名刺を出しますから、貴方も名刺を出してください」

渋々名刺を出した。「最高裁判所事務総局経理局管理課長 清水孝」とあった。

清水課長：「私は、裁判所内の管理を任されている。貴方は管理上裁判所内に入ることは出来ない。全ての人に入場を断っている」

志岐：「請求に名前を連ねてないが、一緒に開示請求をしたものです。何で、脇で聞いているのが悪いのか」

清水課長：「お帰りにならないと、警察を呼びますよ」

志岐：「そうですか。それなら警察を呼んでください。警察と話しますから」

清水課長：「……」

志岐：「ここから電話したらどうですか。早く呼んで下さい」

清水課長：「呼んでもいいのですね。」

志岐：「どうぞ。早く呼んで下さい」

清水課長：「ここからではなくて部屋から電話を架けます」とその場を離れる。

5分ぐらいして清水課長戻ってくる。

志岐：「警察には連絡したのですか」

清水課長：「警察には連絡しませんでした」

志岐：「呼んで下さいよ。待ってますから」

「失礼なこと言って。謝りなさい」

清水課長：「言い過ぎました。部屋に戻り、担当部局と相談してきました。今日のところは申し訳ないがお引取り願いたい。今度話を聞きますので。第一検審で、動画を録ったします。その代わりに、私もI氏と同じ内容についてすぐに開示請求するから、来週その閲覧に参ります。宜しいですね」

アキモト：「わかりました。但し、開示が何時になるか約束できません」

志岐：「開示資料は今そこにあるので時間はかからないはずですよ」

アキモト：「確かに開示書類がありますが、何時開示できるかお約束できません」

清水課長：「外で待ってなくて結構ですよ。裁判所内に喫茶室がありますのでご案内します」
喫茶室に案内され、誰もいない喫茶室で180円也のコーヒーを呑みながら待った。

20 分ぐらいして、清水課長が喫茶室に現れた。

清水課長：「石川さんが開示を受けている閲覧室の前までご案内しましょう。部屋には入れませんが」

清水課長に連れられ、長い廊下、いくつかの階段を上下し、石川氏が開示を受けている閲覧室前まで来た。

清水課長は「ここで今石川さんが話を聞いています。今度志岐さんが来る部屋です」。喫茶室に戻りながら、最高裁判所内を案内してくれた。「ここが大法廷の入り口です。この先に小法廷が 3 つあります。」と。思いがけなく裁判所見学が出来た。

喫茶室に戻り、清水課長と 10 分ぐらい面談。

志岐がイカサマソフトの話を持ちかける。

清水課長：「自分は担当でないからよくわからない。だが、ソフトがそうだとすると、検審の職員はそんな事しませんよ」

志岐：「第一検審で動画を録られた件、事務総局内で話題になっているのですか」

清水課長：「いや、ブログで知ったんです。街カフェとかいうブログです」

（藤島氏の街カフェは、最高裁で相当有名なようだ！）

石川氏が戻ってきたので、「今度また来ます。その時は宜しく」と云って帰路についた。